

新しい国際放送に向けて ～ラジオからテレビへ～

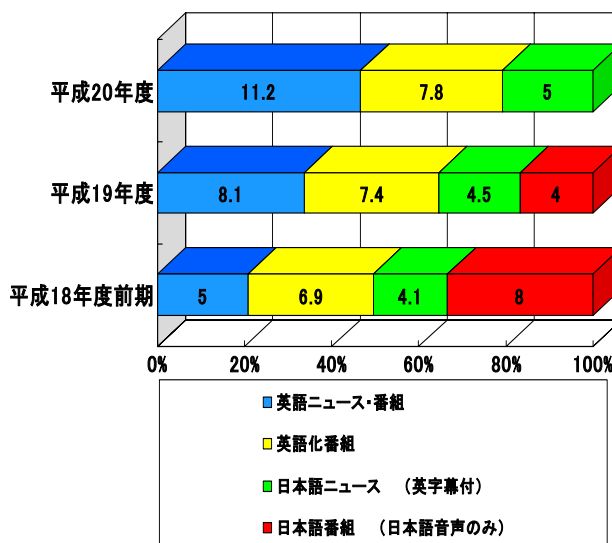
NHKの国際放送は、現在、ラジオ国際放送「ラジオ日本」が、22言語で1日あわせて65時間、テレビ国際放送が、「NHKワールドTV」で、英語と日本語による1日24時間、全世界に向け情報発信を行なっています。この他、外国放送事業者、ケーブル事業者、邦人など向けに「NHKワールド・プレミアム」を1日24時間、番組配信しています。

NHK国際放送は、今、テレビによる日本・アジアの情報の海外発信のさらなる強化や国際理解の一層の促進が求められています。こうした時代の要請に応えるため、NHKとしても、平成18年度から20年度までの3か年経営計画に沿って、今の時代にあったテレビ国際放送やインターネットによる情報発信の拡充を早急に図るため検討を進めてきました。その結果、平成20年度末までに次のような考え方にに基づき、NHK国際放送の活性化を図ることにしました。

<新しい「NHKワールドTV」>

「NHKワールド・プレミアム」は、日本語放送で在外邦人向けのサービスとして定着化してきており、これまで日英双方で放送して来た「NHKワールドTV」については、英語化率を100%にするなど、外国人向けチャンネルとして明確に位置づけ、日本からの情報発信力の強化を目指します。

テレビ国際放送「NHKワールドTV」は、英語ニュースを24時間毎時編成するほか、国際放送独自の英語番組の制作本数・番組のジャンルを拡充するなどして、段階的に英語化率（現行66.2%）を上げていき、平成20年度末までに100%を実現します。



<インターネット>

テレビやラジオ放送を補うものとして位置づけられているインターネットについても、ニュース等の更新回数を増したり、発信ソフトの充実を進めるなどして発信の強化を図ります。

<「ラジオ日本」の見直し>

短波によるラジオ国際放送は、放送通信技術の多様化でその有効性が低下し、世界の主要国際放送とも、使用言語を大幅に削減するなどサービスを縮小し、より有効性の高いテレビ国際放送等に移行しています。

NHKとしても、今年1月公表した3か年経営計画で、ラジオからテレビへと国際放送の重点を移し、これに沿ってラジオの見直しを進めてきました。

限られた“資源”を再編成し、より効率的なラジオ国際放送を構築するため、今年12月の平成19年度「国際放送の放送番組編集の基本計画」に向けて、次の施策の具体的な準備に入ることにしました。実施は、平成19年度下期からになります。

この方針については、7月14日開催の「国際番組審議会」でも、早期に実施すべきだとの意見で一致しました。

- テレビ国際放送の拡充にあわせてラジオ国際放送の送信地域、送信言語の見直しを行なう。
- 北米、ハワイ、欧州向け（ロシア語を除く）送信を廃止する。
- イタリア語、ドイツ語、スウェーデン語、マレー語の4言語を廃止する。
- フランス語はアフリカ向けに、スペイン語は中南米に、それぞれ送信地域を限定する。
- 衛星を使ったアラビア語の放送時間拡大を検討する。
- 言語サービスは、そのときの状況に合わせて、弾力的に見直す。